

1. 経済学部として行った組織的活動

1 和歌山地域経済研究機構

和歌山地域経済研究機構は、経済学部、観光学部、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所と共に研究・政策提言活動を行っている。2009年度は、昨年から引き続くテーマとして「和歌山市中心市街地再生に関する研究」、新規テーマとして「和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題に関する10年後の追跡調査」、「和歌山市における市場（いちば）活性化についての研究」、「観光客の受け入れに対する和歌山県民の意識調査」の4つの研究会を発足した。2009年度の本学での役員、研究メンバー、刊行物は次のとおりである。また、Webサイトの運営、メーリングリストサービス等を提供し、事務局業務についても貢献している。

1.1 役員

理事長：森口佳樹

理事：大泉英次、鈴木裕範

1.2 研究会

【和歌山市中心市街地再生研究会】

代表：足立基浩

研究員：大泉英次、辻本勝久

【消費動向研究会】

研究員：大泉英次、柳到亨

【市場活性化研究会】

代表：鈴木裕範

研究員：大西敏夫、高橋淳子(大学院生経済学研究科)

1.3 刊行物

機関誌 地域経済 No.13 2009年7月発行

研究成果 No.17 ホスピタリティ研究会報告書 2009年10月発行

2 地域マネジメントプログラム

経済学研究科では、2007年度より、和歌山市及び近隣の自治体の公務員並びに地域活動に携わっている社会人を対象に「地域マネジメントプログラム」を開講してきた。この大学院授業の開講によって、大学院の定員充足を図るとともに、地方公務員等のスキルアッ

プを支援し、地域の再生・活性化に寄与することを目指している。

本 2009 年度からは、「働きながら学ぶ」社会人がより受講しやすいよう配慮する意味で、和歌山大学サテライトキャンパスを主たる開講場所として実施している。

2009 年度の開講科目は以下の通りとなっている。

[前期開講科目]

- ・情報ネットワーク特殊問題 佐藤周
- ・地方自治政策特殊問題 野田遊（非常勤講師）
- ・マーケティング・マネジメント論特殊問題 佐々木荘太郎（観光学部）

[後期開講科目]

- ・地方財政特殊問題 稲垣秀夫
- ・都市再生論特殊問題 山田良治（観光学部）、堀田祐三子（観光学部）
- ・資源・環境・エネルギー特殊問題 中村太和

なお、履修者数は下記の通りとなっている（（）は正規生を内数で示す）。

- ・情報ネットワーク特殊問題 3（1）
- ・地方自治政策特殊問題 7（5）
- ・マーケティング・マネジメント論特殊問題 2（0）
- ・地方財政特殊問題 2（1）
- ・都市再生論特殊問題 10（4）
- ・資源・環境・エネルギー特殊問題 7（3）

3 紀南サテライト

- ・ 2009 年度サテライト部企画運営委員会（紀南サテライト担当）
大泉英次教授（サテライト長）、鈴木裕範准教授（学部選出委員）
- ・ 「橋本教授に感謝する会」を紀南サテライト同窓会と共催（2009 年 3 月 14 日）
- ・ 修士論文発表会&記念講演・シンポジウム（2009 年 3 月 29 日）
経済学研究科大学院生松下精二氏による研究発表「田辺市における木質バイオマス利用の可能性」。シンポジウム「紀南地域における木質バイオマス活用と地域づくり」で中村太和教授がコーディネータ。
- ・ 前期授業科目（大学院）
「地域産業クラスター論」：大泉英次教授（橋本卓爾名誉教授と共同担当）。岸和田サテライトとの共同開講。南部町、田辺市、岸和田市でフィールド調査を実施。
- ・ 後期授業科目（大学院）
「地域農業活性化論」：大西敏夫教授（学外講師岸上光克氏と共同担当）。
- ・ 公開講座：企画中
「地域再生への挑戦」をテーマに、経済学部教員による連続講座を新宮市で開催の予定。

- ・ 第2期中期計画における紀南サテライトの諸課題を検討するため、「和歌山大学紀南サテライトみらい戦略チーム」を設置し、検討作業を行っている。これは、和歌山大学紀南サテライト連携協議会幹事団体（和歌山県、田辺市、新宮市、白浜町、上富田町等）のほか、受講生代表等で構成され、紀南サテライト長（大泉）が座長をつとめている。

4 岸和田サテライト

岸和田サテライトでは、これまで①学校型事業、②非学校型事業に大別した形で、岸和田市をはじめとする泉州地域のニーズに対応した事業展開を行ってきた。2008年度においては、岸和田市との地域連携協定5年目の節を迎えたことを踏まえ、これまでの事業展開と今後の事業展開について、和歌山大学・岸和田市地域連携戦略チームを作業部会として設置し、点検・評価と今後の事業展開のあり方についての検討を行った。以下、2009年度の事業展開について、経済学部との関わりを中心に記す。

4.1 学校型事業

(1) 大学院授業

市民ニーズを取り入れながら「大人の学びをプロデュースする」という目的の下、2006年度より経済学研究科及び教育学研究科において科目等履修生を対象とした大学院授業を実施してきた。経済学研究科では、06年度5科目、07・08年度6科目を開設し、サテライト事業の中核を担ってきた。09年度においては、更なる拡充をはかり8科目を開設するとともに、租税法を研究科目とする社会人を対象とした研究指導を岸和田サテライトにて実施するなど、サテライト授業の拡充・体系化に努めている。また、社会人受講生のようばを反映する形で、フィールドワークを取り入れた授業展開など、工夫を凝らしているところである。

2009年度の経済学研究科開講科目と担当者、受講者数（()は正規生を内数で示す）は以下の通りである。

[前期開設科目]

- ・ 経営史特論 上村雅洋 18 (5)
- ・ 地域産業クラスター論 橋本卓爾 (名誉教授)、大泉英次 26 (17)
* 紀南サテライトと共催
- ・ 現代日本地方財政論 河音琢郎 19 (8)
- ・ 現代の社会政策 乗杉澄夫 16 (7)

[後期開設科目]

- ・ 原価計算論 岡橋充明 9 (4)
- ・ 税法と税務行政 畦地文治 19 (7)
- ・ 所得課税論 森本由美子 (非常勤講師) 12 (6)

- ・生活環境計画論（システム工学部開講） 15（6）

（2）学部開放科目

より幅広い市民の知的要求を受け入れる場として、08年度から新たに学部授業を開講した（聴講生形式）。09年度は、後期1科目を開講（教育学部）する計画である。

4.2 非学校型事業

岸和田市を中心に、市民の地域研究・生涯学習活動を共同した形で、地域学習活動の推進を図っている。本事業は、和歌山大学生涯学習教育研究センターが核となって積極的に展開しているが、経済学部の教員も、講師、パネリスト等として参画している。

4.3 わだい浪切サロン

08年度より、岸和田サテライトを、泉州地域住民と和歌山大学との交流・連携の身近な場とするため、2008年度より、毎月第3水曜日という定時定点方式で「わだい浪切サロン」を開設してきた。08年度は10回、09年度も10回（うち8回は実施済み）、和太教員が様々なテーマで話題を提供する形で展開、常時20～30名程度の参加を得て好評を博している。

[わだい浪切サロンで話題提供を行った経済学部教員]

- ・足立基浩「中心市街地のセンチメンタル価値～みんなで考えよう 岸和田市の中心市街地活性化～」2009年4月15日
- ・吉村典久「今日の日本企業の経営戦略とガバナンス」2009年10月21日
- ・河音琢郎「私の地元学体験記～土の人と風の人地域づくり～」2009年11月18日
- ・中村太和「環境・自然エネルギー革命～食料・エネルギー・水の地域自給～」2010年1月20日（予定）

4.4 岸和田サテライト友の会の活動

2007年12月に岸和田サテライト大学院授業履修生（OBおよび受講中の学生）をメンバーとした「友の会」が発足し、会員50名を超え、総会や講演会活動など活発な活動を行っている。2009年度の実施事業は下記の通りである。

- ・岸和田サテライト友の会総会・夏期講演会：2009年7月18日
阪口葉子（2009年修了生）「関西国際空港からの北米路線維持・発展方策に関する研究」
大西敏夫「大阪の地産地消の意義と課題」
- ・岸和田サテライト2010年度開講科目説明会・友の会冬期講演会：2010年1月30日（予定）

経済学部においては、サテライトの科目等履修生から本課程に進み、修士課程を修了した方の研究報告会や経済学部教員による講演会企画、さらには、サテライト授業や本課程

募集の広報など、多面的な形で友の会との協力関係を構築してきており、こうした関係づくりは今後さらに重要性を増すものと考えられる。

4.5 和歌山大学・岸和田市地域連携戦略チームの活動

2008年10月に、協定締結後5年間を経ての地域連携のあり方の点検・評価と今後に向けた提言をとりまとめる作業部会として、和歌山大学・岸和田市地域連携戦略チームが発足し、半年にわたる議論ののち、報告書がとりまとめられた。

4.6 高大連携事業の推進

2008年度に岸和田市立産業高校から経済学部に対して高大連携の申し入れがあり、2009年度においても、高校からの大学訪問、高校への出前授業など、引き続きその具体化に取り組んでいるところである。なお、09年度に実施した事業は以下の通りである。

- ・岸和田産業高校生の和歌山大学経済学部訪問（ゼミナール見学と懇談会）2009年7月15日
対応者：河音琢郎、森口佳樹（学部長）、高校生6名、高校教員3名が参加
- ・岸和田産業高校生向け出前授業「大学案内と経済学のすすめ」2009年11月16日
河音琢郎、清弘正子、高校生16名が参加

4.7 紀南サテライトとの連携の強化

2009年度においては、紀南サテライトとの共催での科目を開講したほか、両事務室スタッフ間での情報交換、交流の場を定期的に設け、連携強化を図っているところである。

5 柑芦会

5.1 研究わくわく人生塾講師

- ・瀧野邦雄 2009年1月27日
「東アジア的平等感」
- ・李 東浩 2009年3月5日
「イトーヨーカ堂の中国進出」
- ・マグレビ ナビル 2009年7月31日
「アメリカの金融危機とグローバル金融市場の変動」
- ・吉村典久 2009年9月29日
「ポスト株主資本主義時代の日本的経営『ポスト株主資本主義』研究会に参加して」
- ・大橋迪男 2009年11月30日
「地球温暖化問題の経済学―天野明弘著『排出取引』中公新書2009年刊をよんで」
- ・マグレビ ナビル 2010年3月10日（スペシャル）
「イスラム金融の勉強会」

6 きのくに活性化センター

きのくに活性化センターが 2009 年に実施した事業のうち、経済学部教員が関係する事業は、つぎのとおりです。

6.1 「熊野地域検定」公式テキストの策定

田辺商工会議所からの委託事業。熊野地域は、和歌山県を中心とする熊野地域とし、歴史・文化・自然・産業・民俗・人物など各分野からまとめる予定で、この編集作業に携わる。同商工会議所・田辺市・田辺市教育委員会と協同で委員会を設置、今年 9 月にテキストブックを刊行。年内に第一回の検定を実施予定。

教員：上村雅洋・鈴木裕範

6.2 「時代小説から読み解く江戸と新宮～茶人・川上不白のまちを考える～」

新宮ライオンズクラブが地域貢献、まちづくり事業の一つとして、直木賞作家・山本一力氏を招いて 2009 年 2 月 7 日開催したフォーラム（きのくに活性化センター等後援）をプロデュース、またパネルディスカッションのコーディネータをつとめた。

教員：鈴木裕範

6.3 串本町中心市街地観光マップの作成

串本町商工会からの委託事業。串本町の中心市街地の新しいまち歩きマップを作成する。「大学生の目線で探した観光資源」がコンセプトで、掲載データは経済学部生が商店街・国道沿線の料理店・飲食店や無量寺周辺の古い町並み等の調査を実施し、それにもとづいてマップに仕上げる。

教員：鈴木裕範

7 生涯学習教育研究センター

2009 年度で生涯学習教育研究センターが主催している事業で、経済学部教員が関わっているのは、下記の取り組みである。

- ・ 社会教育主事講習
足立基浩 2009 年 8 月 4 日「社会教育と地域」
金川めぐみ 2009 年 8 月 19 日「社会福祉と社会教育」
- ・ 地域生涯学習事業開発プロジェクト
足立基浩 2009 年 11 月～2010 年 3 月 兼任
- ・ 高・大連携事業 KOKO 塾「学び郷」
足立基浩 まちづくり WG

8 紀州経済史文化史研究所

2008年度11月より2009年度にかけて紀州経済史文化史研究所が主催している事業で、経済学部教員が関わっているのは、下記の取り組みである。

- ・ 学外企画展「ピース&ビューティー<化粧の時代>の新聞広告」
日時：2008年11月7日～11日
担当内容：会場設営、監視（上村）
- ・ 特別展「文字と絵図の世界—和歌山大学附属図書館の貴重資料—」
日時：2008年11月17日～12月19日
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成、図録の作成、館内説明（上村、長廣）
- ・ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所編『和歌浦天満宮の世界』（清文堂出版、2009年1月刊行）
担当内容：編集、分担執筆（「和歌浦天満宮と現代」）（上村）
- ・ 和歌山県立博物館との共催企画展『根来の“内”と“外”』
日時：2009年1月31日（土）～3月9日（日）
本学の学生が展示作業の一部に従事し、こどもキャプション（子ども向けの解説パネル）を作成した。そのほか、展示品のボランティア・ガイド（展示解説）も行った。（上村）
- ・ フィールドミュージアム『中世の根来を歩く』
日時：2009年2月11日（水・祝）
和歌山県立博物館との共催企画で参加者を募り、現地ウォーキングを実施。（上村）
- ・ 企画展「和歌山大学資料でみる学校の歴史」
日時：2009年4月6日（月）～5月1日（金）
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）
- ・ 常設展「和歌山の教育史—近世から近代まで—」
日時：2009年6月1日（月）～10月30日（金）
担当内容：展示物の陳列、説明原稿の作成（上村、長廣）
- ・ 企画展「西岡虎之助、和歌山の日々—研究と教育—」
日時：2009年6月16日（火）～8月28日（金）
担当内容：監視、案内（上村）
- ・ シンポジウム「ふるさと教育副読本『わかやま発見』を読もう」
日時：11月3日（火）
担当内容：挨拶（上村）
- ・ 特別展「紀伊半島からカリフォルニアへの移民—サンピードロの日本人村—」
日時：2009年11月16日（月）～12月
担当内容：展示物の陳列、監視、図録の編集（上村）

- ・シンポジウム「和歌山から世界への移民—先人の歴史を学び、新たな国際交流へ」
日時：11月28日（土）
担当内容：資料配布、監視（上村）

9 地域連携オフィス

地域連携オフィスでは、以下の3点の活動目的を確認し、それに従った活動を展開してきました。

- ① 経済学部組織および教員個人における地域社会への貢献活動の実態をとりまとめ、学内外への情報発信をはかる。
- ② 地域社会の様々なニーズに応えるための学部の窓口となる。
- ③ 他学部、各種のセンターをはじめとした学内の諸組織との情報交流を進め、地域連携のネットワークをつくっていく。

9.1 社会・地域連携活動のとりまとめと情報発信

昨年度の『社会・地域貢献活動一覧』冊子をもとに、学内諸組織での経済学部教員の活動、経済学部のOB・OG組織である柑芦会、きのくに活性化センターなどの学外組織との連携活動など、社会・地域貢献活動の実態把握につとめました。さらに、個々の教員の活動についても、ゼミナール・講義等での学生、大学院生とのフィールドワークなども包括する形で情報収集につとめました。

情報発信の面では、昨年度の冊子刊行以降の取組みについて、本冊子の編集・刊行を行いました。また、本冊子のうち、組織的活動の概要については、広く学内外に情報発信しています。フィールドワークについては、地域連携オフィス委員の活動を中心に情報発信することとしました。

9.2 地域社会のニーズに応える窓口

地域連携オフィスが地域社会のニーズと経済学部教員のシーズとを円滑につなぐ機能を果たすため、オフィスの位置づけと機能を図1のように整理しました。

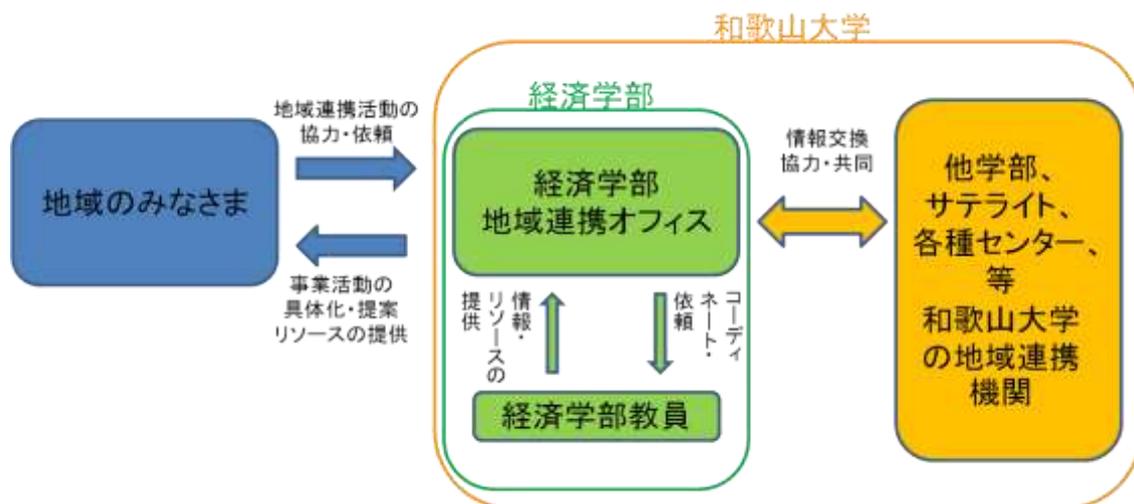


図 1 地域連携オフィスの窓口機能に関するイメージ

こうした整理に基づいて、地域連携オフィスに寄せられた各種依頼のコーディネータにとりくみました。また、経済学部の Web サイト内に地域連携オフィスのページを作成し、学外への情報発信と窓口機能の整備・充実をはかりました。

9.3 学内諸機関との情報交流とネットワークづくり

これまで経済学部との協力関係が緊密であった、紀南・岸和田サテライト、きのくに活性化センター、そして柑芦会については、これら諸機関で活動しているメンバーに地域連携オフィスの委員として参加いただき、日常的な情報交流の円滑化につとめてきました。

9.4 地域連携オフィス委員会の運営

2008 年度の活動(委員会を計 6 回開催)を引き継ぎ、地域連携オフィスの組織活動と運営方針を議論する機関として、地域連携オフィス委員会を、下記の 7 名のメンバー構成で、計 3 回 (2009 年 11 月時点) 開催してきました。

連携オフィス 2009 年度メンバー一覧

大泉 英次 (室長)

足立 基浩、岡橋 充明、河音 琢郎、鈴木 裕範、久保 愛子、山本 敦子